

令和2・3・4年度 新座市教育委員会委嘱研究

研究紀要

令和2年度（1年次）

確かな学力を育てる

—「主体的・対話的で深い学び」の研究—



新座市立栄小学校

令和3年3月

研究経過

令和2年	4月6日	研究推進委員会	研究計画・体制について
	5月29日	全体研修	研究組織・研究計画の決定
	6月26日	研究推進委員会	研究授業運営・タブレットを活用した授業について
	7月6日	全体研修	タブレットを活用した授業について事例研究
	8月17日	全体研修	タブレットを活用した授業について事例研究
	8月18日	全体研修	タブレットを活用した授業について事例研究
	8月31日	研究推進委員会	指導者及び研究授業の計画立案
	9月7日	全体研修	研究授業計画作成
	9月28日	全体研修	研究授業準備及び専門部の活動
	10月26日	全体研修	研究授業準備
	12月14日	研究推進委員会	研究授業準備
令和3年	1月7日	全体研修	研究授業準備
	1月19日	先行授業	算数 第2学年1組 授業者 山村 鮎子 教諭
	1月25日	先行授業	算数 第1学年1組 授業者 原田 由枝 教諭

1月25日	全体研修	研究授業準備
2月1日	研究授業	算数 第1学年2組 授業者 來嶋 真孝教諭 指導者 十文字学園女子大学 安達 一寿 教授
2月9日	先行授業	国語 第5学年1組 授業者 戎子 正晃 教諭
2月10日	先行授業	国語 第5学年2組 授業者 齋藤 敦子 教諭
2月10日	先行授業	社会 第4学年1組 授業者 須田 桃 教諭
2月17日	先行授業	社会 第3学年1組 授業者 花岡 あゆみ 教諭
2月24日	研究授業	研究授業1 社会 第3学年2組 授業者 齋藤 紗也加 教諭 研究授業2 国語 第6学年1組 授業者 中本 壮亮 教諭 指導者 十文字学園女子大学 安達 一寿 教授
3月15日	全体研修	今年度の研究の成果と課題 次年度の方向性について
3月18日	ブロック研修	今年度の研究の成果と課題
3月19日	ブロック研修	今年度の研究の成果と課題
3月26日	研究推進委員会	研究の成果と課題・次年度の方向性について

研究の全体構想

- ・日本国憲法
- ・教育基本法
- ・学校教育法
- ・学習指導要領
- ・埼玉県及び新座市の指導の重点・努力点

学校教育目標

確かな学力を育て、豊かな人間性を培う

さわやかな子
かしこい子
えがおのある子

学校教育目標・具現化の視点
きたえる まなぶ ふれあう

児童の実態

校内研修、学校評価、各学力・学習状況調査等より

- ①学習に対する関心・意欲が高く、協働的に学ぼうとすることができる。
- ②多くの情報から必要な情報を読み取る力が低い。
- ③言語に関する知識・理解が不十分。
- ④思考力・判断力が低い。

研究主題

確かな学力を育てる

—ICTを活用した主体的・対話的で深い学びの研究—

研究の仮説

ICTを活用することで、児童の主体性が引き出されたり、対話の必要感が生まれたりして学びが深まり、確かな学力が育まれるだろう。

目指す児童像

- ◎主体的に問題に取り組める子
- ◎対話的に問題を解決し、深い学びを実感できる子

具体的なすがた

- 課題に進んで取り組む
- 友達と話し合い、新たな考えをもったり、考えを深めたりする

授業研究部

【研究の視点1】

- (1) 主体的な学び
 - ICTの効果的な活用による「学びたい」と思える学習課題の設定と子供たち自身が見通しをもてる学習
 - 栄小学習スタイルの定着
- (2) 対話的な学び
 - 少人数グループ「かなえ（県）会議」の効果的な実施
 - 対話のツールとしてのタブレット型PCの効果的な活用
- (3) 深い学び
 - 習得・活用・探究を意識した単元（題材）計画
 - 質の高い「ふりかえり」の時間の確保
- (4) 児童の意識調査及び実態調査の実施
 - 年間2回実施し、分析・考察

環境整備部

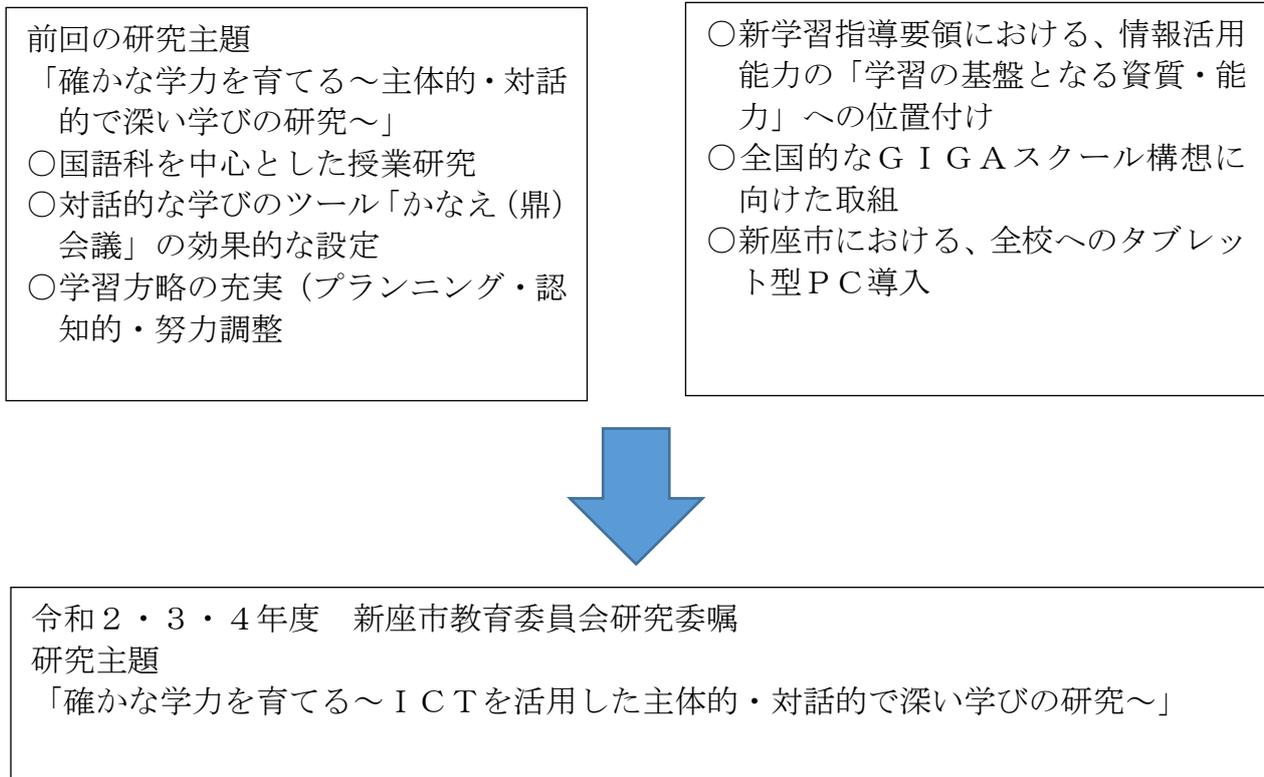
【研究の視点2】

- (1) 「主体的・対話的で深い学び」のための環境整備
 - 栄スタイル学習カードの作成・活用
 - 「かなえ（県）会議の行い方」の掲示
- (2) 読書活動の充実
 - 読書100冊・1万ページ達成者の表彰
 - 図書を紹介・推薦する活動の充実
- (3) 「読む力」を高めるための環境整備
 - ベーシックタイムの計画的な実施
 - 5時間目の授業前10分間で、漢字や語彙・文法等、算数の知識及び技能の習得に重点を置き、指導計画に基づき年間90回以上実施

タブレット型PCを活用した授業研究の実践

令和2年度 研究経過

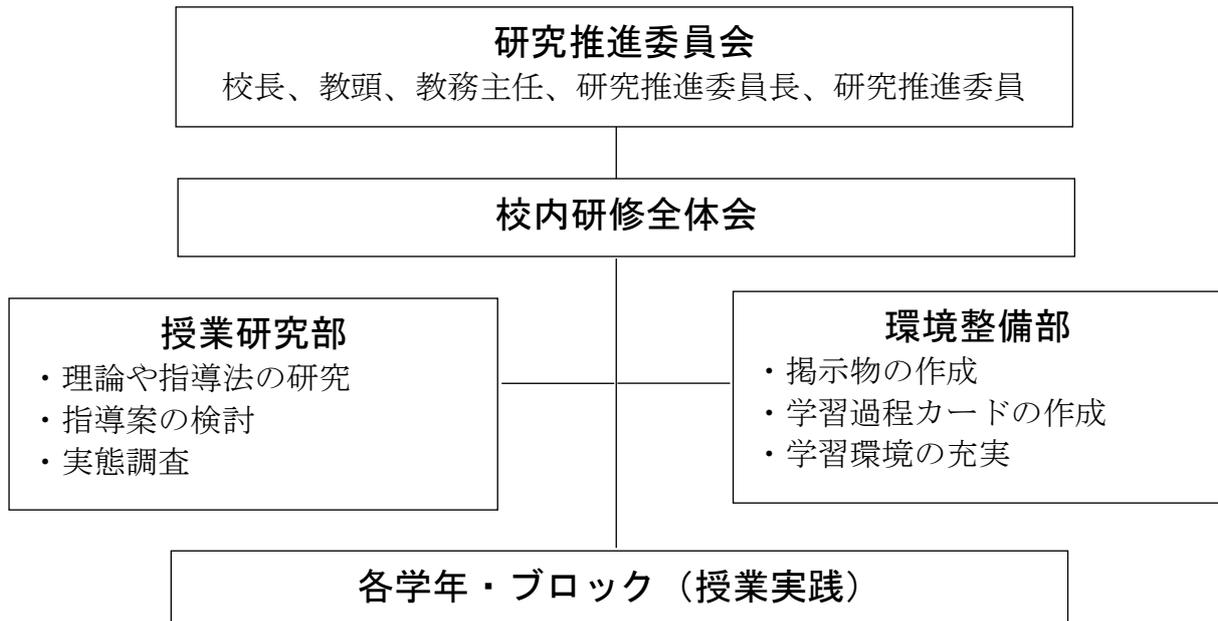
1 研究主題の決定



2 指導者

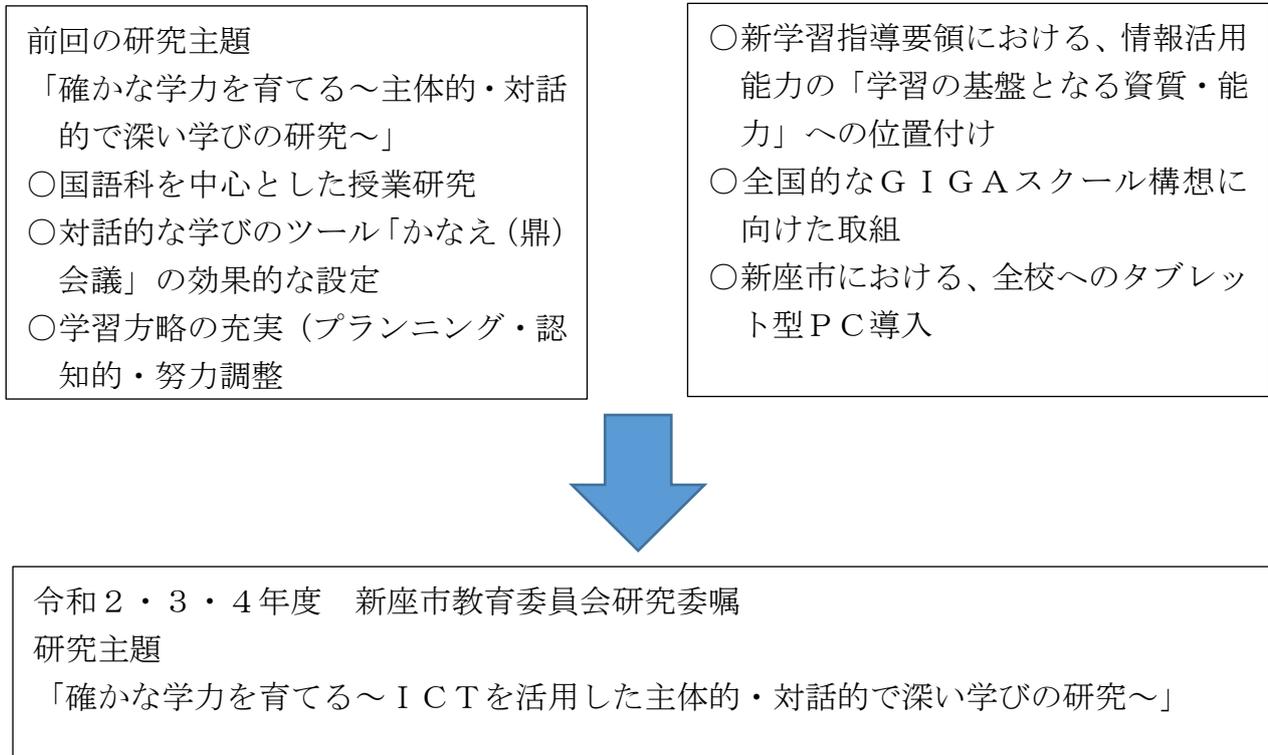
十文字学園女子大学 社会情報デザイン学部教授 安達 一寿 先生
令和3年2月 1日(月) 第1回授業研究会(講義・指導講評)
令和3年2月24日(水) 第2回授業研究会(指導講評)

3 研究組織



令和2年度 研究経過

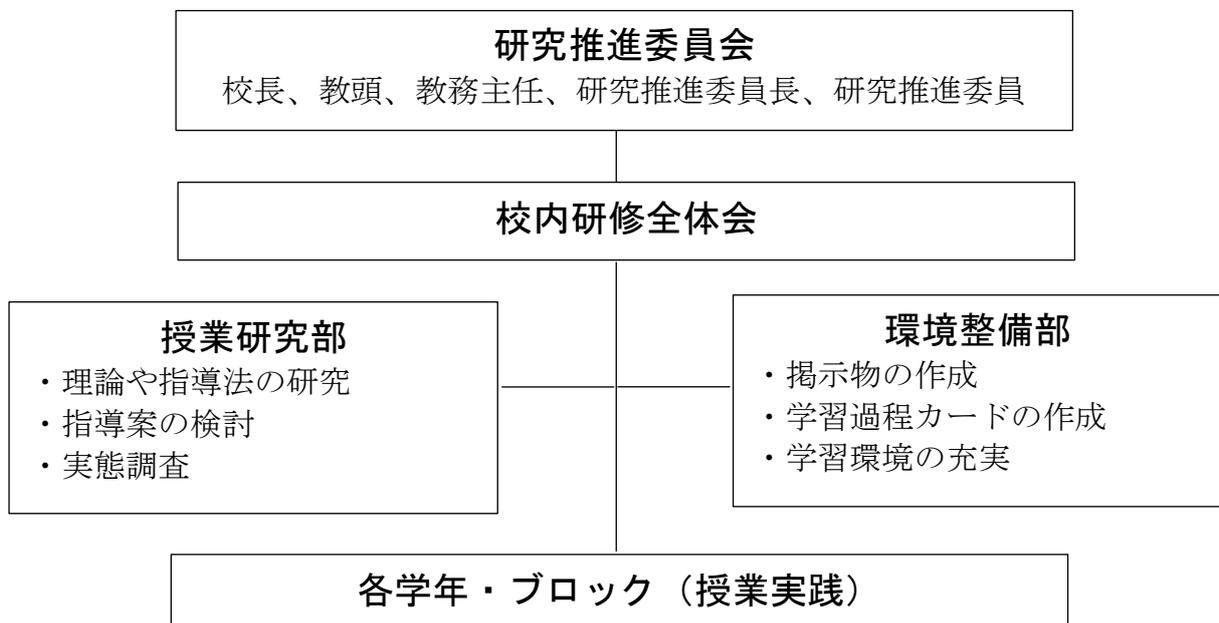
1 研究主題の決定



2 指導者

十文字学園女子大学 社会情報デザイン学部教授 安達 一寿 先生
令和3年2月 1日（月） 第1回授業研究会（講義・指導講評）
令和3年2月24日（水） 第2回授業研究会（指導講評）

3 研究組織



児童対象の実態調査結果

1 調査概要

(1) 時期

第1回：令和2年9月 第2回：令和3年3月

(2) 調査内容

本校研究の「主体的・対話的で深い学び」「ICTの活用」をもとに立てた5点

- ①課題に進んで取り組んでいるか
- ②話をよく聞いて学習しているか
- ③学習の中で考えが変わったり、新しい考えを見つけたりすることができたか
- ④クロムブックを使った学習は楽しいか
- ⑤クロムブックを使った学習は分かりやすいか

(3) 調査方法

各学級で質問紙によるアンケートを実施

(4) 集計方法

学級ごとの一覧表（Excel データ）による

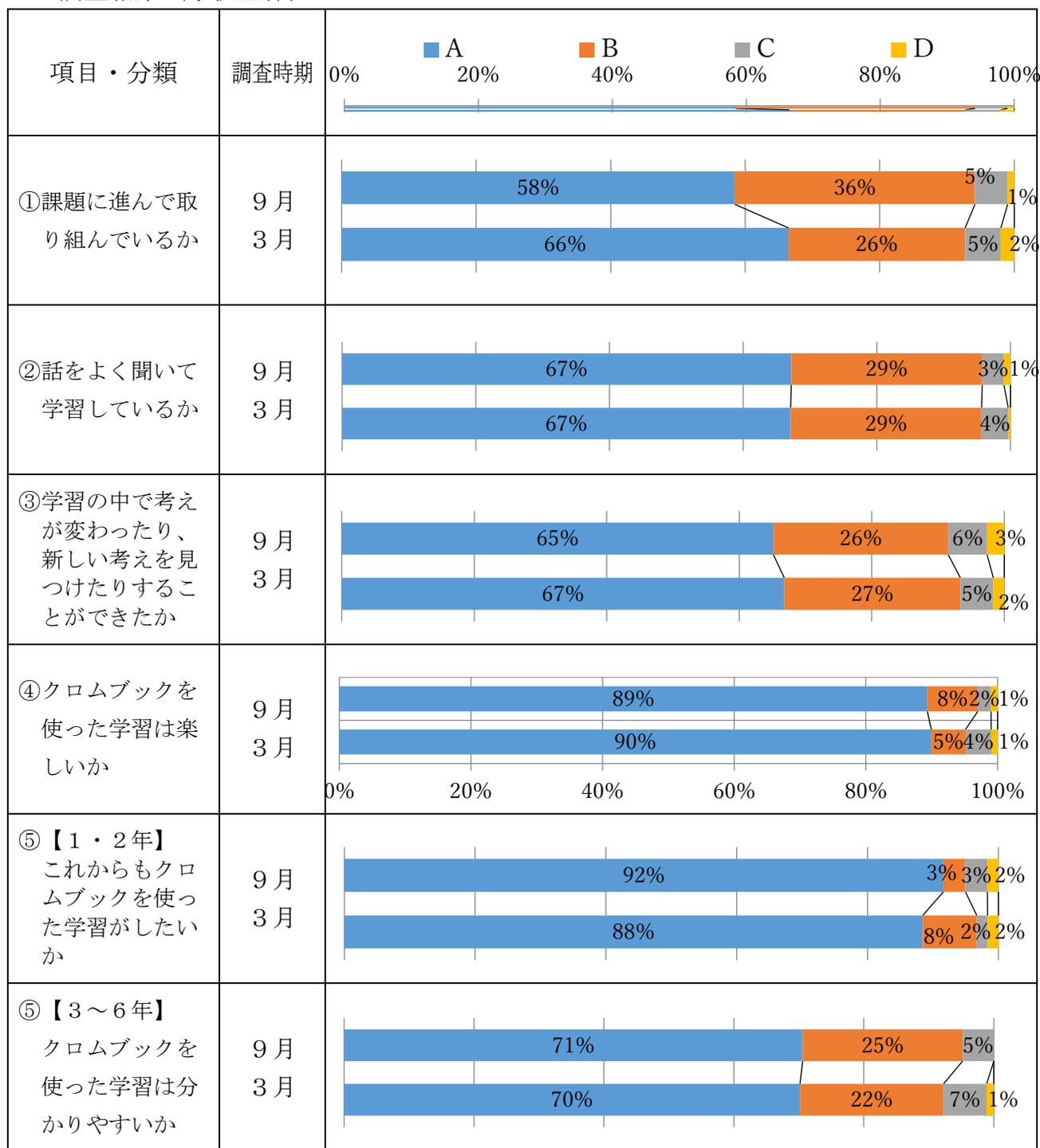
(5) 活用方法

統計から分析し、指導の際の参考資料として活用

2 調査の質問項目

項目・分類	低学年	中・高学年
①課題に進んで取り組んでいるか	せんせいが だしたかだいや じぶんたちで かんがえた か だいに すすんで とりくむこ とが できた。	先生が出した課題や自分たち で考えた課題に進んで取り組 むことができた。
②話をよく聞いて学習しているか	ともだちの かんがえや せん せいの せつめいを よくきい て がくしゅうすることが でき た。	友達の考えや先生の説明をよ く聞いて学習することができ た。
③学習の中で考えが 変わったり、新しい 考えを見つけたり することができた か	じゅぎょうのなかで じぶんの かんがえが かわったり、あた らしいかんがえを みつけたり することが できた。	授業の中で、自分の考えが変わ ったり、新しい考えを見つけたり することができた。
④クロムブックを使 った学習は楽しい か	クロムブックを つかった が くしゅうは たのしい。	クロムブックを使った学習は、 楽しい。
⑤クロムブックを使 った学習は分かり やすいか	これからも クロムブックを つかって がくしゅうがした い。	クロムブックを使った学習は、 わかりやすい。

3 調査結果（学校全体）



4 考察

- 主体的に取り組む態度が身に付いたことが分かる。教師が学習意欲を引き出せる意欲的な授業展開を意識した結果であると考える。
- コロナ禍で対話的な学びの展開が難しかった。来年度はクロムブックを活用し、話を聞くだけでなく、自分から伝える経験も増えるようにしたい。
- クロムブックを活用した授業に対する意欲は変わらず高い。
- 中・高学年の児童でクロムブックを使った学習に分かりにくさを感じている児童がいる。操作が苦手な児童でも、安心して活用できるような工夫が必要である。

第1学年2組 算数科学習指導案

令和3年2月1日（月）第5校時
 在籍児童数 27名
 場所 第1学年2組教室
 指導者 教諭 來嶋 真孝

1 単元名「たしざんとひきざん」

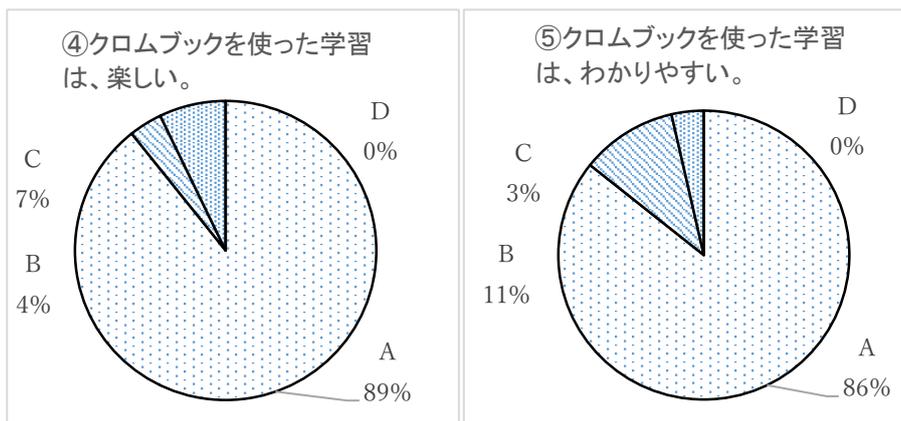
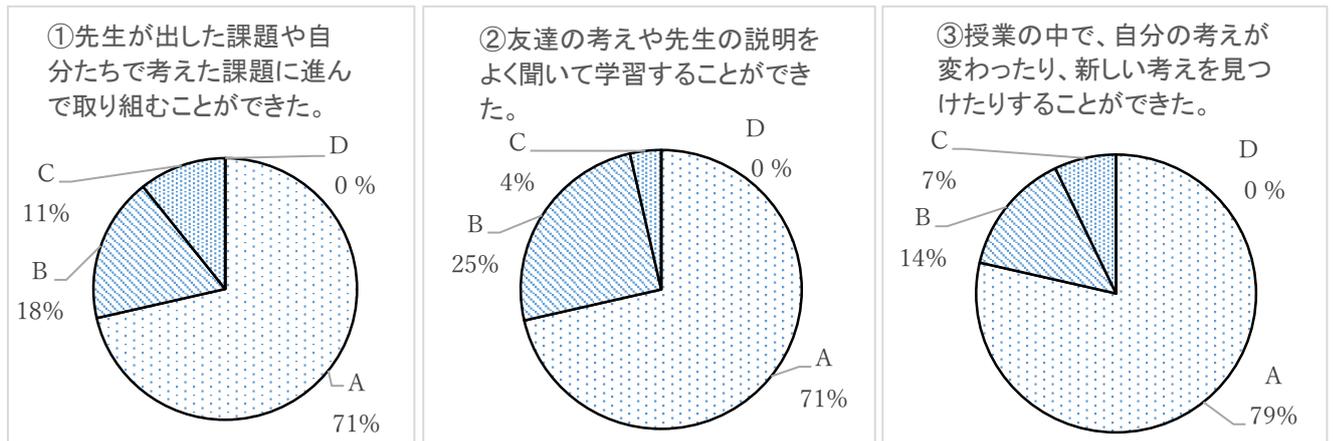
2 単元について

(1) 児童観

本学級の児童の多くは、算数の課題に意欲的に取り組む事ができ、自分なりの考えをもって授業に参加している。前に出て、積極的に自分の考えを公表できる児童もたくさんいる。

〈「ICTを活用した主体的・対話的で深い学び」校内アンケート（令和2年度10月実施）〉

A・あてはまる B・だいたいあてはまる C・あまりあてはまらない D・あてはまらない



10月に行ったアンケートでは、どの項目も肯定的な回答が多く、「D・あてはまらない」と答えた児童は1人もいなかった。特に、「クロムブックを使った学習は、楽しい。」や「クロムブックを使った学習は、分かりやすい。」の質問で、肯定的な回答をした児童は9割以上である。このことから、クロムブックを活用した学習は、児童が意欲的に取り組んでいる事が分かる。しかし、クロムブックに夢中になり、話を聞けなくなる児童もいるため、クロムブックを使う場面と使わない場面で、はっきり切りかえさせていく。

(2) 教材観

本単元で扱う内容は、学習指導要領には以下のように位置づけられている。

第1学年 A数と計算

(2) 加法及び減法に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 加法及び減法の意味について理解し、それらが用いられる場合について知ること。

(イ) 加法及び減法が用いられる場合を式に表したり、式を読み取ったりすること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力を身に付けること。

(ア) 数量の関係に着目し、計算の意味や計算の仕方を考えたり、日常生活に生かしたりすること。

これまで、加法、減法についての指導は、集合数の理解を基盤として、その意味を理解させ、意味と式を結びつけて理解させる事に重点を置いて指導してきた。これまでに学習してきた加法の場合とは合併、増加であり、減法の場合とは、求残、求補、求差であった。

本単元では、これまでの加法、減法の意味をさらに拡張して、その意味理解を深めようとするものである。本単元で、新たに取り上げるのは、順序数を含む加減法、異種の数量を含む加減法、求大や求小の場合の加減法である。本単元では、問題分の中の数量を他の数量に置き換えることにより、加法、減法を適用できるようにし、加法、減法の用いられる場面や意味を拡張していくことになる。

(3) 指導観

本単元では、式に表すこととあわせて、式に読むことができるようにする。すなわち式を具体的な場面に即して読み取ったり、式を読み取って図や具体物を用いて表したりする活動を重視していく。問題文から、問題場面を図に表し、その図を基に立式したり、立式の根拠を図で説明したりする活動を重視する。図を問題解決に生かすことによって、図の有用性を実感させる。

また、アンケートの結果から、児童はクロムブックを使った授業に対してとても意欲的である事が分かった。そこで、問題場面を図に表し、その図を基に立式するという流れを、クロムブックの「jamboard」を用いて行わせることにした。「jamboard」上では、異種の数量で、図の色を変えたり、やり直す際にすぐに消せたりと、児童自身で工夫して、より効率的に、わかりやすい図を作成することができる。ワークシートに鉛筆で書くよりも、より意欲的に活動できると考えられる。

「jamboard」を用いることで算数に苦手意識のある児童も意欲的に取り組めるようにしていきたい。

3 研究主題との関わり

(1) 研究主題・目指す児童像

①研究主題

令和2・3・4年度 新座市教育委員会委嘱研究

確かな学力を育てる

— ICT を活用した主体的・対話的で深い学びの研究 —

②目指す児童像

ICTを使い、主体的・対話的で深い学びができる子

③研究の仮説

ICTを活用すれば、児童の主体性が引き出されたり、対話の必要感が生まれたりして学びが深まり、確かな学力が育まれるだろう。

(2) 本単元・教材における研究の仮説に対する具体的な手立て

手立て1【ICTの活用】

- ・クロムブックを用いた自力解決

クロムブックを用いて、児童が効率的に、立式の根拠となる図を作成できるようにする。また、クラスルームを用いて児童の意見を共有しやすくする。

手立て2【主体的な学び】

- ・「jamboard」の機能を生かした課題解決

自由に線の色を変えたり、消したりできる「jamboard」を用いることで、児童が自ら工夫して図を分かりやすく描き、自力解決できるようにする。

手立て3【対話的な学び】

- ・かなえ（鼎）会議による対話的な学び

かなえ（鼎）会議の中で、自分の意見を言葉にすることや、他の児童の意見を聞くことで、自分の意見と同じところや、違うところを比べられるようにする。

手立て4【深い学び】

- ・振り返りの実施

振り返りによって本時の学びを確認する。

4 単元の目標

- 〈知識・技能〉

順序数や異種の数量を含む加減の場面、求大や求小の場面も加減の式に表せることを理解し、問題を解決することができる。

- 〈思考・判断・表現〉

数量の関係に着目し、順序数や異種の数量を含む加減の場面、求大や求小の場面を図や式に表して考え、表現している。

- 〈主体的に学習に取り組む態度〉

順序数や異種の数量を含む加減の場面、求大や求小の場面を図に表して問題を解決した過程や結果を振り返り、そのよさや楽しさを感じながら学ぼうとしている。

5 指導及び評価計画（全5時間）

項目	時	学習内容	数学的活動	おもな評価規準
順序数と集合数の置き換え	1	○順序数を集合数に置き換えると、加減法が適用できることを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> 問題文を読み、場面について考える。 算数ブロックを基に問題の構造をとらえ、順序数を含む場合も加法が適用できることを考える。 算数ブロックを基に立式し、図を使って説明する。 	<p>【知・技】 順序数を含む場合も加減の式に表して問題を解決することができる。</p> <p>【思・判・表】 図を用いて、順序数を含む加減計算の仕方を考え、説明している。</p>
異種の数量と同種の数量の置き換え	2	○異種の数量を同種の数量に置き換えると、加減法が適用できること理解する。	<ul style="list-style-type: none"> 問題文を読み、場面について考える。 図を基に問題構造をとらえ、異種の数量の場合も加法が適用できることを考える。 図を基に立式して答えを求める。 図を使って説明する。 	<p>【知・技】 異種の数量の場合について、図による1対1対応で同種の数量としてとらえ、加減の意味を拡張し問題を解決することができる。</p> <p>【態度】 図に表して問題を解決した過程や結果を振り返り、そのよさに気付いている。</p>
求大の場面の加法適用	3	○求大の場面について、加法が適用できること理解する。	<ul style="list-style-type: none"> 問題文を読み、場面について考え、図に表す。 図を基に求大の構造をとらえ、立式について考える。 適用問題に取り組み、解決する。 	<p>【知・技】 求大の場面について、図から数量の関係を読み取り、加法の式に表して解決することができる。</p>
求小の場面の減法適用	4	○求小の場面について、減法が適用できることを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> 問題文を読み、場面について考え、図に表す。 図を基に求小の構造をとらえ、立式について考える。 適用問題に取り組み、解決する。 	<p>【知・技】 求小の場面について、図から数量の関係を読み取り、減法の式に表して解決することができる。</p>
問題場面の図式化	5 本時	○場면을図にして問題の構造をとらえ、式や言葉を用いて説明することができる。	<ul style="list-style-type: none"> 問題文を読み、教科書P. 118の図の続きを書く。 図を基に問題の構造をとらえ、問題文の数値に1をたした数が答えになることを理解する。 図を用いて1の意味について確かめたり、式から他者の考えを読み取って伝え合ったりする。 	<p>【知・技】 数量の関係に着目して、図に表し、図から正しい式を立てて解決することができる。</p>

6 本時について

(1) 本時の目標

数量の関係に着目して、図に表し、図から正しい式を立てて解決することができる。【知・技】

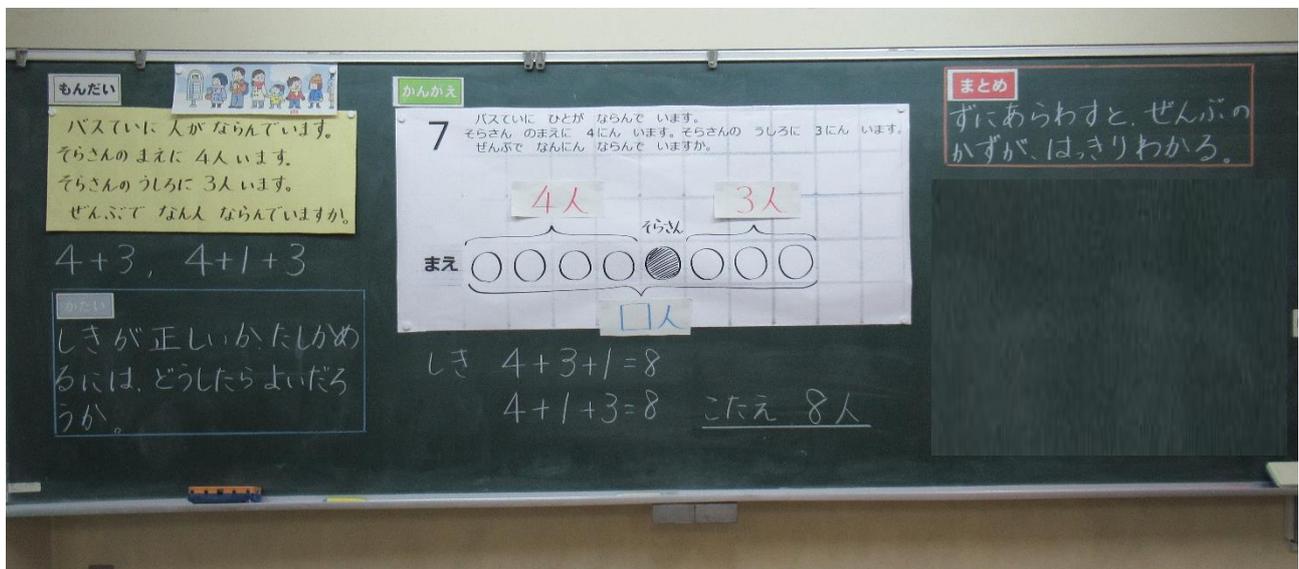
(2) 展開

段階	学習活動	教師の発問 (◎) 予想される児童の反応 (・)	評価規準 (◇) 指導上の留意点 (○) 研究主題との関わり (☆)	時
つかむ	1 問題を把握する。	◎問題から分かることは何ですか。 ・そらさんの前に4人いる。 ・そらさんの後ろに3人いる。	○初めは、図の必要性を感じさせるために、不完全な挿絵を見せる。	3分
	2 課題を知る。	◎分からない数は何ですか。 ・全部で何人並んでいるか。 ◎どんな式になりますか？ ・ $4 + 3$ ・ $4 + 1 + 3$	○何を聞かれているか確認し、題意をとらえさせる。 ○正しい式が分からないことから、図の必要性を感じさせる。	2分
かだい：しきが正しいか たしかめるには どうしたら よいだろうか。				
かんがえる	3 クロムブックを用いて問題場面を図に表す。	◎どうしたら式が正しいか確かめることができそうですか？ ・図を描くといいと思います。	○今までの学習を想起させる。 ☆クロムブックを使い、様々な工夫をしながら図を作成させる。	10分
	4 図から立式し、答えを出す。	◎クロムブックを使ってどんな図になるか、描いてみましょう。 ・前の4人や後ろの人は赤丸。 ・そらさんは黒丸。 ◎図から式を立てて、答えを出してみましよう。 ・ $4 + 1 + 3 = 8$ ・ $4 + 3 + 1 = 8$ ・ $5 + 3 = 8$ ・ $4 + 3 = 7$ ・8人 ・7人	○色分けをすることで、より分かりやすくなることを伝える。 ○式にある数字が、それぞれ何を表す数なのか、説明できるよう声かけをする。 ◇ 数量の関係に着目して、図に表し、図から正しい式を立てて解決することができる。【知・技】 (評価方法) Jamboard、発言 (手立て) 途中までの図を与え、どうしたら完成するか考えさせる。	2分

あらわす	5 かなえ（鼎）会議を行い、立式やその根拠について説明する。	<p>◎どうしてその式になるのか、図を使って友達に説明しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4は、そらさんの前にいる人の数です。 ・1はそらさんです。 ・3はそらさんの後ろにいる人の数です。 	○それぞれの数字が何を表しているか、考えさせる。	5分
	6 式からどんな順番で計算をしているのか考える。	<p>◎それぞれどんな順番で考えたのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・〇〇さんは、さきに前の人と後ろの人を足している。 ・〇〇さんは、前の人とそらさんを先に足している。 	<p>☆考えの中から、出た式を全体に共有する。</p> <p>○足す順番が違ってても、答えは変わらない事を確認する。</p>	8分
ふりかえる	7 まとめる。	<p>◎図で表すとどんなよさがありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題文には出てこない、必要な数字が分かる。 	○図で表すことによって、問題文にはない必要な数が分かることに気付かせる。	8分
	8 振り返りをする。	◎振り返りを書きましょう。	○本時の学びで分かったことや、感じた事などを記入させる。	7分

まとめ：ずにあらわすと、ぜんぶのかずが、はっきりわかる。

(3) 板書計画



低学年ブロック 授業実践のまとめ

算数（1年） たしざんとひきざん

授業者 来嶋 真孝

本単元のICT活用 Jamboard を活用して図から正しい式を立式させる

1 ChromeBook 活用のねらい

本時では、立式する為の根拠となる図を描く際に、ChromeBook の「jamboard」を使用した。Jamboard の、描いたり消したりすることの簡単さや、色分けなどができることを利用して子供たちが主体的に学習することがねらいである。

2 事前準備

(1) jamboard 上で課題のページを作成する。

(2) classroom で jamboard のデータを添付して課題を配付する。



3 活用の様子

(1) 立式の根拠となる図を作成する際に、jamboard を使用した。児童は、jamboard 上で色分けをしたり、語群を適切な場所に移動させたりして図を作成した。

(2) 共有の際には、教室のパソコンから児童の jamboard をテレビに映し出し、図を指しながら説明をさせた。



4 成果 (○) と課題 (●)

○児童が意欲的に取り組む事ができた。

○描いたり消したりすることが楽にでき、児童が試行錯誤しながら図を描いていた。

●共有の仕方として、児童の ChromeBook にお互いの画面を共有できるとよかった。

●不具合が生じた際の対応の知識が不十分であった。

(図が消えてしまった、タッチが反応しないなど)

第3学年2組 社会科学習指導案

令和3年2月24日（水）第5校時
 在籍児童数 32名
 場所 第3学年2組教室
 指導者 教諭 齋藤 紗也加

- 単元名「人々のくらしのうつりかわり」
 小単元名「新座市の様子と人々のくらしのうつり変わり」

2 小単元について

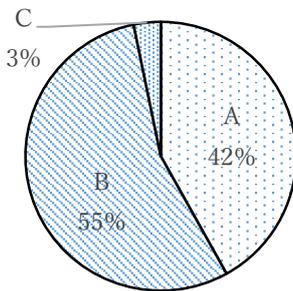
(1) 児童観

本学級の児童は、社会科の授業に大変意欲的に取り組んでいる。グラフを読み取ることが苦手な児童も、得意な児童に助言を受けながら諦めずに取り組むことができる。

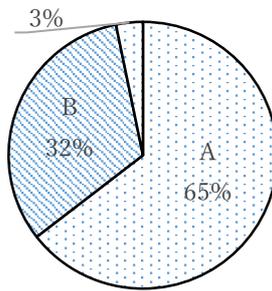
〈「ICTを活用した主体的・対話的で深い学び」校内アンケート（令和2年度10月実施）〉

A・あてはまる B・だいたいあてはまる C・あまりあてはまらない D・あてはまらない

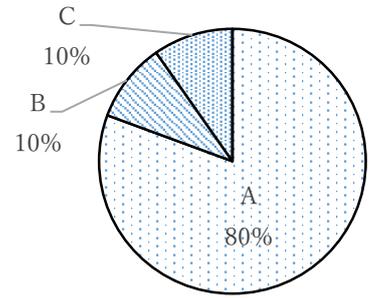
①先生が出した課題や自分たちで考えた課題に進んで取り組むことができた。



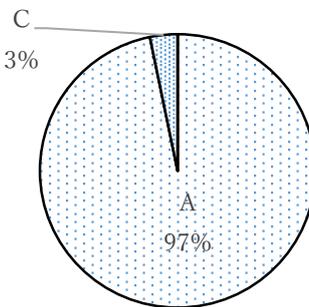
②友達の考えや先生の説明をよく聞いて学習することができた。 D



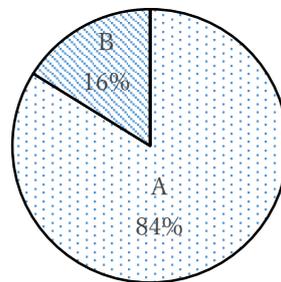
③授業の中で、自分の考えが変わったり、新しい考えを見つけたりすることができた。



④Chromebookを使った学習は、楽しい。



⑤Chromebookを使った学習は、分かりやすい。



10月に行ったアンケートでは、どの項目も肯定的な回答が多かった。「Chromebookを使った学習は、分かりやすい。」と答えた児童は、AとBの回答が100%となりChromebookを使った取組に好意的であることが分かる。現在、様々な教科で使用しているが、課題に取り組む際は、大変集中しており、短い時間で課題を作成することができる。一方で「授業の中で、自分の考え

が変わったり、新しい考えを見つけたりすることができた。」では、Cが10%だったため、本小単元で話し合ったり、Jamboardに共に書き込んでいったりする作業を通して、新しい考えを見つけられるようにしていく。

(2) 教材観

新座市の様子の変り変わりについて、交通や公共施設、土地利用や人口などの時期の違いに着目して、地図などの資料で調べ、年表などにまとめる。また、市の人々の生活の様子や変化を捉え考え、表現する。これらのことを通して、市の人々の生活の様子は、時間の経過に伴って移り変わってきたことを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を解決しようとするのをねらいとしている。

本小単元では、新座駅や志木駅といった身近な施設の変化を導入としている。その後、昔と現在の比較を通して道路や鉄道・公共施設・土地の使われ方・新座市の人口などの移り変わりを理解する学習となっている。写真等の資料を活用しながら、Jamboardで昔と現在の比較をより分かりやすく学習することを目指していく。

(3) 指導観

本小単元では、交通や公共施設・土地の利用・人口の時期による違いについて地図などの資料で調べ時間の経過に伴い、移り変わってきたことを理解できるようにする。そこで、資料をJamboardのスライド1枚に貼り付け、比較できるようにする。また、交通は資料の情報がとても多いため、鉄道と道路の2つのスライドを用意することとする。

また、Jamboardは、それぞれの班に配布し、全員で共有して書き込めるようにする。そうすることで、色々な意見を取り入れることができると考える。Jamboardに書き込む付箋には、自分の意見の最後に名前を記入させることとし、話し合いの際に理由も一緒に述べられるようにする。

3 研究主題との関わり

(1) 研究主題・目指す児童像

①研究主題

令和2・3・4年度 新座市教育委員会委嘱研究

確かな学力を育てる — ICTを活用した主体的・対話的で深い学びの研究—

②目指す児童像

ICTを使い、主体的・対話的で深い学びができる子

③研究の仮説

ICTを活用すれば、児童の主体性が引き出されたり、対話の必要感が生まれたりして学びが深まり、確かな学力が育まれるだろう。

(2) 本単元・教材における研究の仮説に対する具体的な手立て

手立て1【ICTの活用】

- ① 資料の読み取りを行う際、Jamboard を使用して自分の考えを書き込むことで、視覚的に整理しやすくする。
- ② Jamboard で付箋の色を変えて記入させるとことで別の意見に気付くことができるようにする。

手立て2【主体的な学び】

- ① 新座市の写真や地図、グラフなど分かりやすい資料を比較して提示することで、自分たちで読み取りたいと思えるようにする。
- ② Jamboard を活用し、資料を拡大・縮小したり、書き込んだりすることを容易にできるようにし、意欲的に学習に取り組めるようにする。

手立て3【対話的な学び】

- ① 資料ごとにグループに分かれて読み取りを行うことで、友達の見意見を参考にしたり自分の班に戻ったあと自信をもって資料から分かったことを伝え合えるようにする。
- ② Jamboard を使用してまとめさせ、相手意識をもち、分かりやすくまとめることができるようにする。

手立て4【深い学び】

- ① それぞれの資料から分かったことを共有しながら、班で1つの Jamboard にまとめさせ、自分たちの考えを整理させる。

4 小単元の目標と評価規準

(1) 目標 交通や公共施設、土地利用や人口などの時期の違いに着目して、地図などの資料で調べたりしてまとめ、新座市の様子の変化を捉え理解することが出来る。

(2) 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 交通や公共施設、土地利用や人口などの時期による違いについて、地図などの資料などで調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、市や人々の生活の様子を理解している。 ② 調べたことを年表や文などにまとめ、市や人々の生活の様子は、時間の経過に伴い、移り変わってきたことを理解している。	① 交通や公共施設、土地利用や人口などの時期による違いに着目して、問いを見出し、市や人々の生活の様子について表現している。 ② 駅や鉄道、公共施設ができたこと、人口が変化してきたこと、土地利用の様子が変わったことなどを相互に関連付けたり、市の様子の変化と人々の生活の様子の変化を結びつけたりして、市の人々の様子の変化を考え、適切に表現している。	① 市の様子の移り変わりについて、予想や学習計画を立てたり、見直したりして、主体的に学習問題を追及し、解決しようとしている。

5 小単元の指導計画・評価計画（全7時間）

	○学習活動 ・学習内容	【評価の観点】内容〈方法〉	資料等
つかむ	<ul style="list-style-type: none"> 副読本の写真を手がかりにして、気付いたことや知っていることを話し合い、昔のまちの様子や昔の道具に関心をもち、人々のくらしの変化について、単元の学習問題をつくることができる。 ①副読本の写真で見つけたことや思ったことを発表し合う。 ②自分が知っていることや聞いたことなどを発表し合う。 ③副読本の写真や教科書の市のうつり変わりのイラストを読み取り、今と違うことや変わってきたことを話し合う。 単元の学習問題を立てる。	【態】 市の様子の移り変わりについて、予想や学習計画を立て学習問題を追究しようとしている。〈観察、ノート〉	副読本 P72、73
調べる	小単元（1）新座市の様子と人々のくらしのうつり変わり <ul style="list-style-type: none"> 新座市内の駅のうつり変わりについて表現することができる。 ①「50年ほど前」「40年ほど前」「今」の新座市内の駅周辺の写真を比べて気付いたことを発表する。 ②「近くに住むおじいさんの話」などから、昔の様子について分かったことを発表する。 	【思・判・表】 交通や土地の利用などについて、時期による違いに着目して、市の様子について表現している。〈ノート、発表〉	副読本 P74、75
	<ul style="list-style-type: none"> 新座市の交通のうつり変わりについて理解することができる。 ①「70年から60年ほど前」「今」の道路や鉄道の地図を比べて、交通が整備されてきた様子を調べる。 ②道路や鉄道が整備されたことによって、わたしたちの生活はどのように変わってきたのかについて話し合う。 	【知・技】 時期による交通の違いについて、地図で調べることで市の交通の変化の様子を理解している。〈観察、ノート、Jamboard〉	副読本 P76、77
	<ul style="list-style-type: none"> 新座市の公共施設のうつり変わりについて理解することができる。（本時） ①「70年前から60年ほど前」「今」の地図を比べて、公共施設のうつり変わりについて調べる。 ②現在はどのような公共施設があるのか、調べて分かったことを話し合う。 新座市の土地の使われ方のうつり変わりについて理解することができる。 ①「70年から60年ほど前」「今」の地図を比べて、土地の使われ方について調べる。 ②土地の使われ方の変化からわかることについて話し合う。 	【知・技】 公共施設のうつり変わりについて、地図で調べることで公共施設の変化の様子を理解している。〈観察、ノート、Jamboard〉 【知・技】 土地の使われ方について、地図で調べることで、土地の使われ方の変化の様子を理解している。〈ノート、Jamboard〉	副読本 P78、79 副読本 P80、81

	<ul style="list-style-type: none"> ・新座市の人口のうつり変わりについて理解することができる。 ①なぜ人口が増えたのか、それぞれのテーマごとに話し合う。 	【知・技】 人口のうつり変わりについて、グラフや地図などの資料で調べ、人口の変化の様子を理解している。〈Jamboard〉	副読本 P82、83
まとめる	<ul style="list-style-type: none"> ・新座市の人口のうつり変わりについて理解を深め、まとめることができる。 ①②それぞれ分かったことを班に戻し、互いに伝え合う。 班ごとに、人口が増えた理由を1枚のスライドにまとめ、発表する。 最近の人口の特色について、資料から分かったことを話し合う。 	【思・判・表】 人口のうつり変わりについて、グラフや地図などの資料で調べたことをもとに、人口の変化の様子を考え、表現している。〈Jamboard〉	副読本 P82、83
生かす	<ul style="list-style-type: none"> ・新座市のくらしのうつり変わりを年表にまとめ、くらしの変化を考え、これから新座市はどうあるべきかを考え、ポスターに表現する。 ① これまで調べたことを話し合いながら1枚の年表にまとめ、整理する。 ② 新座市のこれからについて考え、簡易的なポスターを制作する。 	【思・判・表】 くらしの変化について考え、これからの新座市のあり方をポスターに表現できている。〈年表、ポスター〉	副読本 P90、91

6 本時の学習指導（4／7時）

（1）目標

新座市の様子のおつり変わりについて、資料を見ながら考え表現することができる。【思・判・表】

（2）展開

段階	学習活動 ・ 学習内容	指導上の留意点 (○) 評価規準 (◇) 研究主題との関わり (☆)	資料等	時間
つかむ	1 前時を振り返る。 ・写真や資料から、今と昔の新座について知る。	○前時に行った A 道路 B 駅を振り返り、本時の見通しをもたせる。	Chrombook で班ごとに作成したスライド	5
	今と昔では、まちの様子はどのようにかわったのだろうか。			
考える ・ あらわす	2 資料から読み取る。 ・昔と今の新座市の地図から変わったことを個人で書き込んでいく。 C 公共施設 D 土地の利用	○一人ずつ付箋の色を変えるようにする。 ○付箋の最後には名前を書き入れるようにする。	Chrombook 一人一台 Jamboard の4枚のスライド C 公共施設 (地図) D 土地の利用 (地図)	1 1
	3 情報の整理と付け足しをする。 ・班で話し合いながらさらに	○地図を読み取る際、地図記号や土地の利用の色を黒板に掲示する。		2 2

	<p>意見をスライドに書き込んだり、まとめたりする。</p> <p>4 まとめ。 ・公共施設と土地の利用それぞれわかったことを書く。</p>	<p>○同じ意見の付箋は重ねるように声かけをする。 ○Cから順番に考える・あらわすを繰り返す。 ○パソコンを使って補足していく。 ☆Jamboardを使って、資料を見たり付箋を書き込んだりして新座市のうつり変わりを見つける。</p> <p>◇新座市の公共施設や土地の利用のうつり変わりについて、地図で調べることで、公共施設や土地の変化の様子を理解している。〈観察、ノート、Jamboard〉 〈観点〉【知技】 〈評価方法〉 観察、ノート、Jamboard 〈手立て〉 資料を提示し、注目するポイントを黒板に示す。</p>	<p>新しい Jamboard のスライド</p>	<p>4</p>
ふりかえる	<p>5 振り返る。 ・学んだことやこれから学びたいことを書く。</p> <p>6 次時について知る。</p>	<p>○新座市の昔と今の様子を比べて、人々の生活がどのように変わったかを考えさせる。</p> <p>○新しいスライドに人口のグラフを貼り付け、見通しがもてるようにする。</p>	<p>Formを使用する。</p> <p>Jamboard の4枚のスライド</p>	<p>2</p> <p>1</p>

(3) 板書計画

今と昔では、まちの様子はどのようにかわったのだろうか。

交通の資料①	交通の資料②	まとめ	<p>〈公共しせつ〉 昔とくらべて今は、公共しせつは ふえた。</p> <p>〈土地の利用〉 昔とくらべて今は、畑や森林は へり、家は ふえた。</p>
地図記号	土地の利用の色		

中学年ブロック 授業実践のまとめ

社会科（3年） 人々のくらしのうつりかわり

授業者 齋藤 紗也加

本単元のICT活用 Jamboard を活用して、資料を読み取ったり考えを整理したりする

1 ChromeBook 活用のねらい

本單元では、資料の読み取りの際に ChromeBook の「Jamboard」を使用した。詳しく見たい場所を拡大することで資料を詳しく見られるようにした。また、自分の意見だけでなく友達の見解も参考にさせて、主体的で対話的で深い学びにつながるようにした。

2 事前準備

- (1) Jamboard で課題を作成。その際、資料を「背景」に設定して、児童が資料を移動できないようにした。
- (2) classroom に、作成した課題を、話し合いをする班ごとに配付する。
- (3) 3年生では、タイピングを行うことが難しいため、手書き入力ができるタブレット型にして活動するよう児童に伝える。



社会	
目	新潟市の様子と人々のうつりかわり 8 班
目	新潟市の様子と人々のうつりかわり 7 班
目	新潟市の様子と人々のうつりかわり 6 班
目	新潟市の様子と人々のうつりかわり 5 班
目	新潟市の様子と人々のうつりかわり 4 班
目	新潟市の様子と人々のうつりかわり 3 班

3 活用の様子

- (1) 自分の意見が中々出せない児童も同じ Jamboard に書き込んでいる児童の見解を参考にしながら書き込んでいた。
- (2) 自分の意見を発表するとき、資料に丸をつけたり拡大したりして、聞いている友達が分かりやすいように工夫していた。



4 成果 (○) と課題 (●)

- 意欲的に取り組んでいた。自分だけでは気付かなかったことも班で付箋を共有することで新しく気付くことができた。
- 見たい所を拡大しながら読み取ることで新たな気付きや「なぜこのようになっているのだろう」と次時につながる課題が生まれていた。
- 今回は、グループで1つ課題を配布したが個人で配布することでポートフォリオとなり、個人の評価につなげることができる。

第6学年1組 国語科学習指導案

令和3年2月24日（水）第6校時
 在籍児童数 37名
 場所 第6学年1組教室
 指導者 教諭 中本 壮亮

1 単元名・教材名

資料を使って、効果的なスピーチをしよう「今、私は、ぼくは」

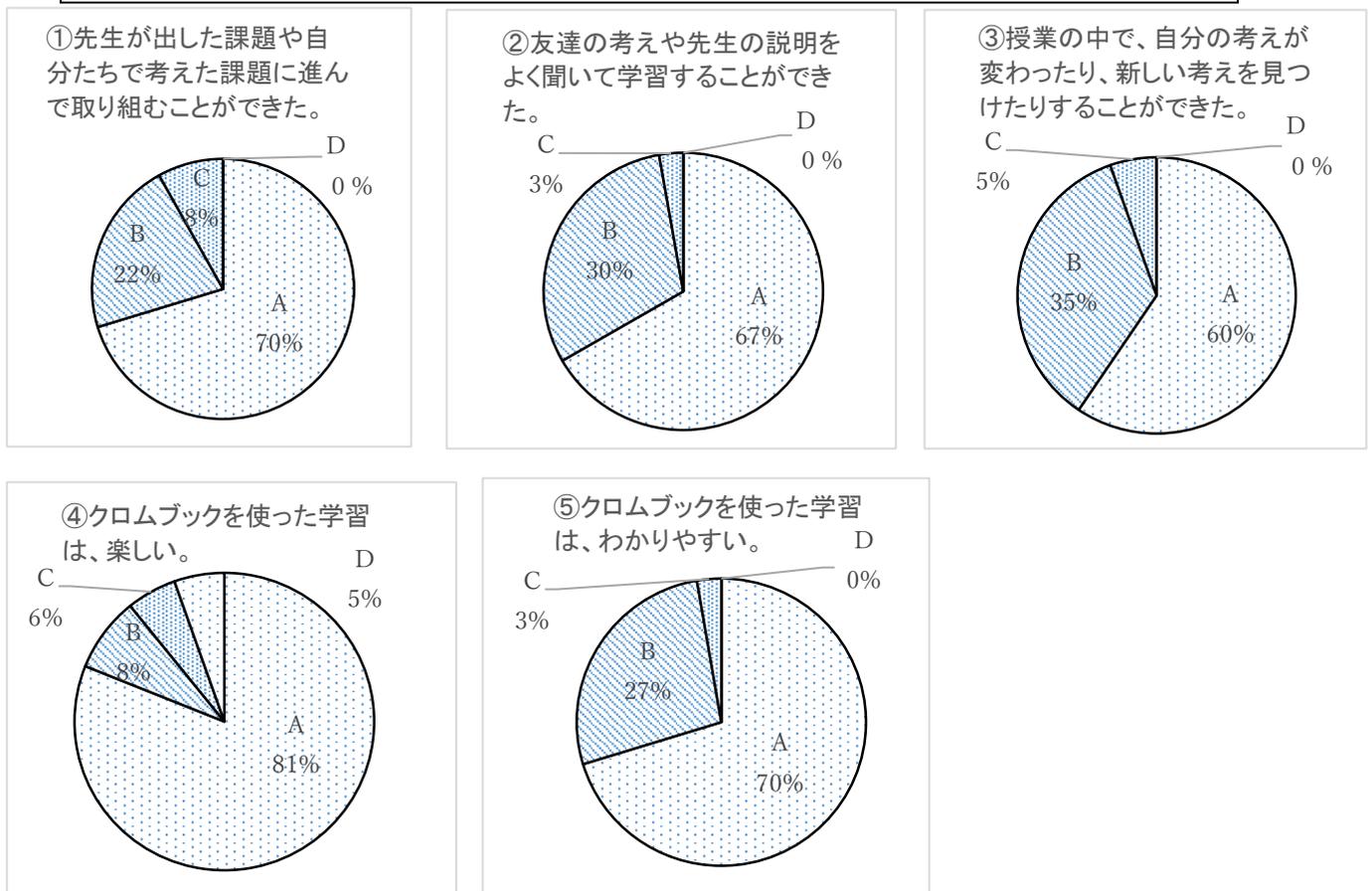
2 児童の実態と本単元の意図

(1) 児童観

本学級の児童の多くは国語の学習に進んで参加することができる。かなえ（県）会議等の対話的な学習活動がこれまでに身に付いており、意欲的に取り組んでいる。

〈「ICTを活用した主体的・対話的で深い学び」校内アンケート（令和2年度10月実施）〉

A・あてはまる B・だいたいあてはまる C・あまりあてはまらない D・あてはまらない



昨年10月に行ったアンケートでは、全体的に肯定的な意見が多く、特に質問①・②・③では肯定的な回答が90%を超えている。昨年度までの研究で取り組んできた「つかむ・考える・あらわす・ふりかえる」という栄小の授業スタイルが定着した結果である。

今年度から取り組んでいるク롬ブックを活用した学習についても、意欲的に取り組んでいることが分かる。しかし、質問④ではCが6%、Dが5%いた。家庭でも使っていて、タブレット型P

Cの操作に慣れている児童もいれば、あまり使ったことがなく、操作が不慣れな児童もいる。苦手意識があって、否定的回答になっていると考える。そこで、操作方法について、口頭で説明するだけでなく、実際の画面を大型テレビに映し出して、視覚的にも確認できるようにする。また、各教科の学習で効果的にクロムブックを活用し、様々な機能に触れることで、利便性を実感させたい。

(2) 教材観

本単元では、学習指導要領における国語の内容、「A 話すこと・聞くこと」について、以下の内容を扱う。

A 話すこと・聞くこと

- イ 話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考えること。
- ウ 資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること。

本単元は、児童がこれからの人生を思い描き、今の自分の思いを伝えるスピーチを通して、効果的な資料を提示しながら、自分の考えが相手に伝わるように表現を工夫することを学ぶことができる。小学校卒業を間近に控え、中学校という新しい世界への期待や不安が重なり、複雑な思いを抱いている児童が自分の思いを伝えあうことによって、一人一人がかけがえのない存在であるという実感をもたせたい。

(3) 指導観

本単元では、「はじめ・中・終わり」という基本の構成で、相手と場の意識を明確にもって話を組み立てる学習を行う。そのために、効果的な資料を提示して話し方を工夫することを意識させる。本学級には、クロムブックを使った学習に楽しさを見いだせていない児童もいる。活用の機会を増やすため、資料はGoogle スライドを使って作成することとする。スピーチの中でも特に伝えたいところを端的にまとめて作るようにする。作成例を用意したり、実際に作成している様子を大型テレビに映したりして、手順が分かるようにする。タブレット端末の操作に慣れている児童は、背景やアニメーションなどを工夫しても良いと伝える。

相手に伝わるスピーチになるように話し方を工夫させたい。そのために、発表している様子をクロムブックで撮影し、グループで見合う活動を行う。友達に見てもらって助言をもらうことができるだけでなく、自分で自分の発表を見直すこともできる。自分なりの反省点と他者からの助言を生かして、より良い発表を作り上げていけるようにしたい。

3 研究主題との関わり

(1) 研究主題・目指す児童像

①研究主題

令和2・3・4年度 新座市教育委員会委嘱研究

確かな学力を育てる — ICTを活用した主体的・対話的で深い学びの研究—

②目指す児童像

ICTを使い、主体的・対話的で深い学びができる子

③研究の仮説

ICTを活用すれば、児童の主体性が引き出されたり、対話の必要感が生まれたりして学びが深まり、確かな学力が育まれるだろう。

(2) 本単元・教材における研究の仮説に対する具体的な手立て

手立て1【ICTの活用】

- ①Google スライドの機能で、資料を作成する。スピーチの中で特に伝えたいところを端的にまとめる。必要であれば、写真や図も活用させる。操作に慣れている児童には、背景やアニメーションを付けて工夫させる。
- ②クロムブックを用いて、スピーチしている様子を動画で撮影する。グループで見合っ、良いところや改善点を確認させる。また、自分で自分の発表する姿を見ることで、客観的に見直すことができるようにする。

手立て2【主体的な学び】

- ①将来の夢やこれから大切にしていきたいことなど、伝えたい内容を考え、スピーチの話題を自分で決定させる。
- ②クロムブックで撮影した発表の様子を自分で見て、より良い発表にするための改善点を自分で考えるようにする。

手立て3【対話的な学び】

- 「かなえ（鼎）会議」を行い、スピーチの発表をよりよくするための助言をし合う。

手立て4【深い学び】

- 授業参観で保護者に向けて発表するというゴールを設定し、目的意識をもって、自分のスピーチをより良くするために学習を進められるようにする。

4 単元の目標

- (1) 資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができる。
〈思考力・判断力・表現力等〉A (1) ウ
- (2) 文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話の構成や展開について理解することができる。
〈知識・理解〉(1) カ
- (3) 話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考えることができる。
〈思考力・判断力・表現力等〉A (1) イ

5 単元で取り上げる言語活動

資料を用いて、自分の考えを伝えるスピーチをする。

6 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話の構成や展開について理解し	①「話すこと・聞くこと」において、話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区	①資料を活用して自分の考えを表現することに意欲的に取り組み、聞き手の知識や反応等

ている。	別するなど、話の構成を考えている。 ②「話すこと・聞くこと」において、資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫している。	に応じて、より効果的なスピーチにしようとしている。
------	--	---------------------------

7 指導と評価の計画（全6時間扱い）

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
1	○自分の思いをスピーチで伝えるという学習の見通しをもつ。 ○付録CDの音声資料を聞き、ゴールのイメージを明確にする。	○児童の伝えたいという思いや課題意識を高める。 ○音声資料と教科書のスピーチメモをモデルとして提示する。	[思・判・表] スピーチ会に向けて、目的や意図に応じて話題の材料となる事柄を書き出している。(ノート) [態度] 学習の見通しをもち、効果的なスピーチへの意欲を高めている。(観察)
2	○スピーチの話題を考える。 ○伝えたい内容を整理し、構成を考えて、スピーチメモを作成する。	○将来の夢やなりたい自分についてなどから、話題を考えさせる。 ○自分の伝えたいことが伝わるように構成を考えさせる。	[知・技] 話の構成について理解している。(スピーチメモ) [思・判・表] 目的や意図に応じて伝え合う内容を検討し、自分の考えと事実とを区別して話の構成を考えている。(スピーチメモ)
3	○自分の考えや思いを効果的に伝えられる資料を作成する。	○Google スライドを使って、資料を作成させる。 ○自分の思いや考えが伝わるように意識して、資料を作成させる。	[思・判・表] 自分の考えが伝わるように、効果的な資料を作成している。(資料)
4	○資料を提示するタイミングなどを決めて、スピーチの内容を完成させる。 ○1度目のスピーチ練習を行い、動画撮影をする。	○自分の思いや考えが効果的に伝わるかどうか、スピーチメモや資料を見直させる。 ○クロムブックの動画撮影機能を使って、練習している様子を友達同士で撮影させる。	[思・判・表] 効果的に資料を提示するなど、スピーチの表現を工夫している。(観察)
5 本時	○スピーチ会に向けて、グループで練習の動画を見合い、助言をする。 ○友達の助言などから、スピーチを改善させる。	○発表する際に気を付ける点について確認する。 ○かなえ(鼎) 会議で、発表について助言し合う。	[思・判・表] 伝えたいことに合わせて資料を活用するなどして、スピーチの表現を工夫している。(観察)

6	○授業参観でスピーチを行い、単元の学びを振り返る。	○練習した発表のしかたを生かして、授業参観で保護者に向けてスピーチを行う。	[思・判・表] 資料を使って、自分の考えや思いを効果的に伝えている。(発表)
---	---------------------------	---------------------------------------	--

8 本時の学習指導 (本時 5 / 6時)

(1) 目標

○グループで助言し合って、スピーチがより良くなるように考えることができる。

(2) 評価規準

○伝えたいことに合わせて資料を活用するなどして、スピーチの表現を工夫している。

(3) 展開

段階	学習活動	学習内容	指導上の留意点 (○) 評価規準 (◇) 研究主題との関わり (☆)	時
つかむ	1 前時までの学習を振り返る。	○前時までの学習内容 ○単元のゴール	○前時までの学習を想起し、単元のゴールを意識させる。	2
	2 本時の学習課題を知る。	○見通し	○課題を確認し、本時の意欲を高める。	1
自分の思いが伝わるスピーチにするために、どのように工夫すれば良いのだろう。				
かんがえる	3 スピーチを見直す際の観点を確認する。	○表現のポイント ・声の大きさ ・間の取り方 ・表情 ・身振り手振り ・抑揚	○観点を掲示し、グループで話し合う時にも確認できるようにする。 ○観点を全員で確認し、目的意識をもたせる。	5
	4 かなえ(鼎)会議を開き、動画を見て、発表をより良くするための助言をし合う。	○友達や自分のスピーチの良いところ ○友達や自分のスピーチの改善点 【期待する反応】 ・なるべく前を向いて発表しようとしているのが良い。 ・もう少し資料を長く提示した方が、伝えたいことが分かる。	☆クロムブックで撮影した動画を見て、自分や友達の発表を振り返る。 ☆発表の良いところと改善点について、かなえ(鼎)会議で意見を交流し、自分の発表をより良くすることにつなげる。 ○異質集団による3人グループを設定する。 ○教室とラーニングルーム	25

			の2つを利用することで、密集を避け、話し合いがしやすくなる。	
あらわす	5 自分の発表の改善点を考え、スピーチの練習をする。	○交流によって気が付いた発表の仕方 ○スピーチの練習	◇伝えたいことに合わせて資料を活用するなどして、スピーチの表現を工夫している。 (思考力・判断力・表現力等) 〈評価方法〉 教師による行動観察 〈「努力を要する」状況(C)への手立て〉 友達からの助言に合った改善点に気を付けて発表するように支援する。	7
ふりかえる	6 本時の学習を振り返る。	○振り返りの仕方 【期待する反応】 ・自分の発表する様子を自分で見て、もっとハキハキと話をしたいと思った。 ・友達からのアドバイスを聞いて、どうすればスピーチがもっと良くなるかが分かった。	○交流した結果、自分の発表をどのように改善しようと思ったかを意識して、振り返りシートに記入させる。	5

(4) 板書計画

<ul style="list-style-type: none"> ◎表現のポイント ・声の大きさ ・間の取り方 ・表情 ・身振り手振り ・抑揚 	<p>今、私は、ぼくは</p> <p>資料を使って、効果的なスピーチをしよう</p> <p>自分の思いが伝わるスピーチにするために、どのように工夫すれば良いのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎かなえ会議でやること ①クロムブックで発表の動画を見る。 ②良い点と改善点を確認する。 ③グループで伝え合う。
---	---

高学年ブロック 授業実践のまとめ

国語（6年） 資料を使って、効果的なスピーチをしよう

授業者 中本 壮亮

本単元のICT活用 Google スライドによる資料の作成と Chromebook での動画撮影

1 ChromeBook 活用のねらい

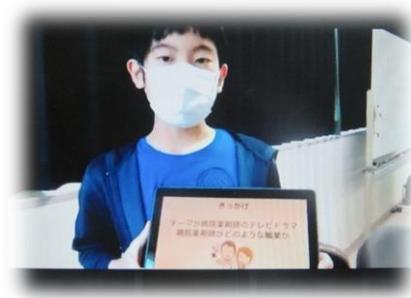
本学級に Chromebook を使った学習に楽しさを見いだせていない児童が数名いて、活用の機会を増やすため、Google スライドを使って資料を作成させることにした。また、相手に伝わる話し方の工夫をするため、動画を撮影し、グループで見合う活動をした。

2 事前準備

- (1) Google スライドの機能で、スピーチの中で特に伝えたいところを端的にまとめるように意識して、資料を作成させた。操作に慣れている児童は、背景やアニメーションを付けて工夫していた。
- (2) Chromebook を用いて、友達同士でスピーチしている様子を動画で撮影させた。再生した時に声が聞こえるように、発表者と撮影者の距離を調整するよう、指導した。共有フォルダを作成し、そこに保存するようにした。

3 活用の様子

- (1) Chromebook で撮影した動画をグループで見合う活動を行った。友達の発表の良いところと改善点を見つけ、ワークシートに記入させた。また、自分が発表する様子も動画を見て、自分で発表を見直すことができるようにした。
- (2) 本校で前研究から取り組んでいる対話活動である「かなえ（県）会議」を開き、グループごとに、友達の発表の良いところや改善点を伝え合う活動を行った。



4 成果（○）と課題（●）

- スライドの作成では、画用紙等を書くよりも、相手に伝わる資料になるように文字の大きさや色などを簡単に変えることができ、学習課題の解決に向け、非常に効果的であった。
- 発表の様子を動画で撮影することにより、これまでは見られなかった自分の発表の様子を自分で見ることができ、改善点に気づきやすく、相手に伝わる話し方の工夫につなげることができていた。
- 練習は動画撮影だが、本番はクラスの前で発表となり、形態が異なってしまうことで練習の成果が出るのかどうか、疑問が残った。
- 動画視聴の時間を確保したり、課題の持ち方を工夫したりして、かなえ（県）会議の目的を明確にして、良いところや改善点を話し合えると良かった。

本年度の研究 成果と課題

1 成果

- 児童の学習意欲向上につながり、主体的に学習する態度が育まれた。児童はどの発達段階でも、傍観者にならず、授業に参加していた。
- Chromebook を使うと消したり書いたりできて、学習能率が上がる。
- 扱う資料が児童にとって適度なハードルであり、また Jamboard によって児童一人一人の思考が共有しやすいこともあり、児童が意欲的に授業に取り組んでいた。
- Chromebook を使って学習を行う際も、普段の学習と同様、いかに資料を見せるか、どのような資料を使うかを考える教材研究が大事だと実感した。
- Jamboard の活用では、話し合いながら付箋を動かしたり、直したりすることで、児童が考えを整理しやすくなっていた。
- Chromebook を使うことに、児童も教員も慣れたと思う。
- 動画撮影によって、自分を客観視し、見つめ直すことができるのが良かった。
- ICT機器の活用によって、自分の変容を確認し、達成感を味わうことができた。
- 写真や図を取り込んだり、アンケート機能を活用したりして、効果的な資料作成ができた。

2 課題

- Jamboard のページを増やして児童が全員のものを見られるとよい。
- 1年生だと使い方を理解するまでに時間がかかるのではないかな。
- 発表者の意見を全員に送信できないかな。
- 今年度は、Chromebook の使い方について焦点を当てられた研修だったので、来年度以降は Chromebook を使用した授業をすることによって児童がどのように学びが深まったのかについて焦点を当てて研修をしたい。
- 今年度の、「ChromeBook をいかに活用するか」という研究から、その時間のねらいをいかに達成するか（ChromeBook の活用の仕方のタイミング・資料の見せ方・活用の形態等は適切だったか）にシフトしたい。
- Chromebook を使いこなすことが目的ではなく、Chromebook を効果的に活用することによって、各教科の学力を向上させることが目的であることを忘れないようにしたい。
- ネットリテラシーをもっと身に付けさせる必要がある。（調べ学習の時にどのようなサイトを見れば良いのかなど）
- Chromebook を活用した後に、対話的な活動を取り入れていく必要がある。
- 情報活用能力の系統性を立てられると良い。
- 共有フォルダに保存したデータの扱いを統一したい（今のままだと、他人の動画を編集したり、サイトに投稿したりすることができてしまう）

おわりに

ご指導いただいた先生

十文字学園女子大学

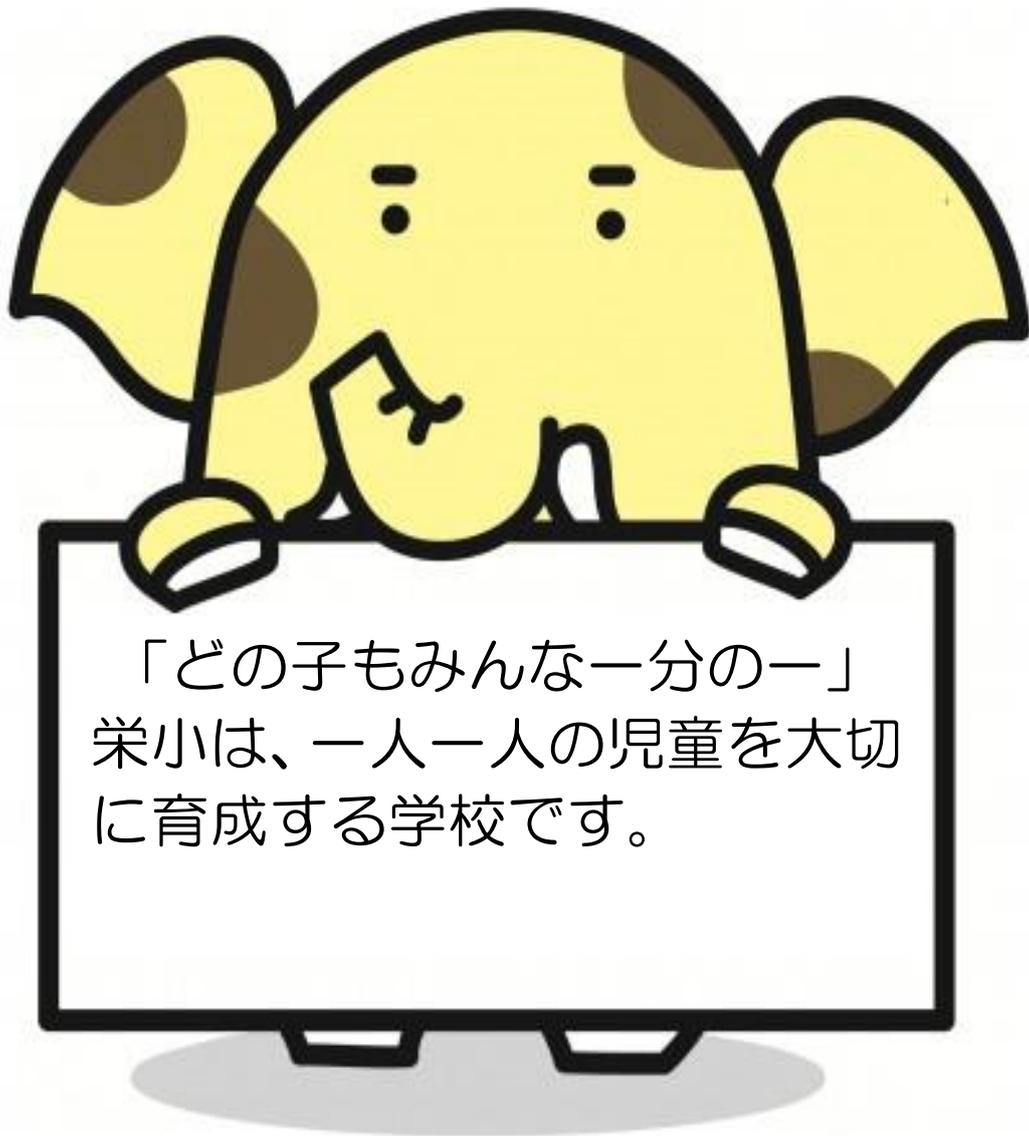
安達 一寿 教授

研究に携わった教職員

校長	影山 葉子	教頭	八代 剛	教務主任	☆野末 淳
1年	原田 由枝	1年	☆來嶋 真孝	2年	山村 鮎子
2年	☆小山 文好	3年	花岡 あゆみ	3年	☆齋藤 紗也加
4年	須田 桃	4年	☆杉山 晴生	4年	横塚 幸葉
5年	戎子 正晃	5年	☆齋藤 敦子	6年	◎中本 壮亮
メイプル	川瀬 亜美	音楽専科	中根 悠太	養護教諭	渡邊 未来
事務主幹	林 修一郎	市事務	加藤由香里	栄養職員	上田 路子
特別支援教育支援員	平井 資子	英会話講師	田辺みどり	図書整理員	寺島 加代子
子どもと親の相談員	茂木 さち			PC指導員	高田 夏恵

◎研究主任

☆研究推進委員



「どの子どもみんな一分の一」
栄小は、一人一人の児童を大切に
育成する学校です。